

2013年4月16日

## ～ 化粧品の使用による快適感の向上やストレス抑制効果を脳血流変化より解析 ～

ノエビアグループは、化粧品を用いたスキンケア行為がもたらす快適感の向上やストレス抑制効果を、前頭前野の酸素化ヘモグロビン濃度の変化による客観的評価法を用いて明らかにしました。この成果は今年の基本化粧品の開発に応用する予定です。

第11回アジア化粧品技術者会研究発表会(ASCS) バリ大会にて発表

ノエビアグループは、これまで数値化が困難であったスキンケア行為による快適感やストレス抑制など心理的効果の解析を、脳血流変化を指標とした定量的な評価方法により行ってきました。今回の研究では、前頭前野の酸素化ヘモグロビン濃度の相対的変化を解析することにより、マッサージという特別なスキンケア行為だけでなく、化粧品を塗布する日常的なスキンケア行為も、快適感やストレス抑制をもたらすことを明らかにしました。この研究成果を、2013年4月23日～25日にインドネシアのバリ島で行われる「第11回アジア化粧品技術者会研究発表会(ASCS)」にて発表いたします。株式会社ノエビアでは、この研究成果を今年発売予定の基本化粧品において、快適感を高める上で重要な「のび」「なじみ」「なめらか感」など化粧品の使い心地を高める処方開発に応用していく予定です。

### 【研究の背景】

基礎化粧品を使用したお肌のお手入れやマッサージなどのスキンケア行為によるストレスの緩和や心地よさなどの心理的効果は、化粧品の持つ感性的価値のひとつとして重要です。しかし、スキンケア行為による心理的効果の評価は、従来、主にアンケートによる主観的な方法で行われていました。そこで、機能的近赤外分光法(FOIRE-3000 / 島津製作所製)を用い、脳血流変化を指標として、スキンケア行為による心理的効果を定量的に解析してきました。今回の研究では、女性が日常的に行なう化粧品を用いたスキンケア行為の心理的効果を、脳血流変化より解析しました。

### 【研究の成果】

- 1) 化粧水を塗布した際の酸素化ヘモグロビン濃度の変化を計測しました。その結果、未塗布時と比較して、塗布した時の方が前頭前野の酸素化ヘモグロビン濃度が顕著に低下しました。これにより、化粧水を塗布することが快適感をもたらすことを明らかにしました。
- 2) ストレス指標である言語流暢性課題を行った後、化粧水を塗布した際の酸素化ヘモグロビン濃度の変化を計測しました。その結果、未塗布時と比較して塗布した時の方が、ストレス課題によって上昇した酸素化ヘモグロビン濃度を顕著に低下させました。これにより、化粧水を塗布することがストレス抑制に有用であることを明らかにしました。

### ＜このリリースに関するお問い合わせ＞

株式会社ノエビア 東京都中央区銀座 7-6-15 広報・宣伝部 後藤・森山  
TEL 03-5568-0349 FAX 03-5568-0441